

## 令和6年度事業計画

### 【学術・投稿論文】

担当理事 近藤 英司

#### 1) 研修会の開催

- ① 原則的に毎月1回、津市において母体保護法指定医研修会と日本産科婦人科学会専門医研修会を兼ねた研修会を開催する。

#### 2) 学術論文の募集と審査

- ① 三重県産婦人科医会会員から学術論文の募集を行う。
- ② 医報掲載論文は、毎年5編前後の投稿があり、今後も三重県産婦人科医報を論文発表の場の一つとしてぜひ投稿をお願いしたい。
- ③ 論文は、3名の編集委員・学術委員により査読が行われ、三重県の産婦人科医療の発展に少しでも寄与すると判断されれば、できるだけ掲載する方針で行います。

#### 3) その他の事業

- ① 三重県の産婦人科医療の向上と産婦人科医療提供体制の充実に必要な事業を実施または後援する。

### 【母子保健】

担当理事 前川 有香

1) 胎動チェックのおかげで常位胎盤早期剥離や胎児機能不全の早期発見・児救命につながる症例があります。引き続き、スマートフォンのアプリ「Babyプラス」を使用した胎動チェックを勧めて頂きますようお願い致します。

2) 新生児蘇生法(NCPR)講習会につきましては、三重県産婦人科医会は毎年3月に開催しておりますが、県内の各施設でも講習会を開催しており、コロナ禍の参加制限は解除されていくと思われますので、最寄りの施設の講習会を受講して下さい。日本母体救命システム普及協議会(J-CIMELS)の母体救命コースは、三重大学の協力を得て、三重県産婦人科医会が開催することとなりました。伊勢志摩地区の受講者が少ないとのことで、8月11日(日)に伊勢赤十字病院での開催を計画しておりますので、近隣の施設の方は是非ご参加下さい。

3) 産婦健康診査事業では、産後2週間・1ヶ月健診時にEPDSの実施や市町への情報提供が必要で、負担をおかけ致しますが、産後のメンタルヘルス向上と児童虐待防止のため、適正な実施をお願い致します。

4) 「母と子のメンタルヘルスフォーラム in 三重」は2023年6月5日に無事開催致しました。多くの先生方にご協力頂き、誠にありがとうございました。周産期メンタルヘルスの問題は、今後も重要であると考えます。母と子のメンタルヘルス研修会は、今後も毎年開催して参りますので、スタッフにも是非受講をお勧めください。

5) 「みえ出産前後からの親子支援事業」の対象は「妊娠22週から産後16週」の育児不安のある妊産婦さんに加え、胎児異常や早産リスクが高い症例に同一医療機関内のNICU医師が出生前訪問を行った場合も利用可能です。1件あたり産科は4,000円・小児科は6,000円の相談料が支払われます。精神科への緊急時の紹介システムも是非御活用下さい。

## 【医療保険】

担当理事 西村 公宏

- 1) 令和4年度の診療報酬改定で不妊治療が保険適応となって2年経過しましたが、社会保険の会議では生殖補助医療関連の質疑が多数占めるのが現状です。自由診療から保険診療に移行することの困難さを感じます。現在、国は出産費用の保険化を進めています。疾病である不妊症の保険化が現在も一部混乱していることを考えますと、正常分娩は疾病ではありませんのでより困難であることが予想されます。また、自由診療の場合、地域ごとの経済状況に合った価格設定が可能ですし妊産婦の多様なニーズや人件費・機材の高騰にも柔軟に対応できます。正常経過を逸脱して異常になった場合に保険というこれまでの対応で問題ないと考えます。本年度から出産費用の見える化を具体化し、その先に出産費用の保険適応との流れの様です。まずは見える化で評価されている項目について注視していきたいと考えます。
- 2) 診療報酬改定の内容、全国医療保険担当者連絡会や東海社保協議会の協議内容をすみやかに会員に連絡するように努めます。

## 【医療安全対策】

担当理事 菊川 東洋

- 1) 最新の各診療ガイドラインに沿った診療・治療をしていただくように周知する。
- 2) 偶発事例報告は適宜報告して頂く。
- 3) 常位胎盤早期剥離、22週以降の子宮内胎児死亡例の症例は、毎月の報告をお願いする。
- 4) NCPR、J-MELSの参加を勧める。

## 【献金】

担当理事 菊川 東洋

- 1) 一般社会への‘おぎゃー献金’活動の周知と協力依頼。
- 2) 出産された産婦さんおよびご家族への協力依頼。
- 3) ㈱伊藤園、その他の献金チャリティー自販機の設置拡大。
- 4) 分娩を扱っていない会員にも協力を依頼する。

## 【医業推進】

担当理事 菊川 東洋

- 1) 周産期に関しては、有床診療所と周産期母子センターが周産期ネットワーク等で相互に連携し、分娩リスクに応じた医療が提供される体制やシステムを作り、どの地域でも安全に分娩を行えるようにする。
- 2) がん検診受診率を向上させるため、産婦人科医が市民公開講座等積極的に参加し、がん検診の有用性を啓蒙する。
- 3) HPVワクチンに関する適切な情報提供とHPVワクチン接種の推進を行う。
- 4) 性教育を充実し、若年者に正しい性知識を伝える機会を増やしていく。

## 【広報】

担当理事 前沢 忠志

- 1) 毎年1回の三重県産婦人科医報を3月に刊行する。
- 2) 会員の自由投稿を出来るだけお願いしたい。

## 【女性医師関係】

担当理事 神元 有紀

- 1) 女性医師の数は増えてきており、医局員の約半数に達しようとしている。育児など様々な状況下で働いており、日勤・外来のみの仕事になってしまう場合も多い。このため、県下の女性勤務医師の現状を把握し、個々に合った勤務形態・勤務場所を提案したい
- 2) 女性医師が既婚・未婚に関係なく、それぞれの希望の分野で活躍できるように相談に応じ、彼女たちの勤務環境を整えるよう働きかけていきたい。

## 【癌対策】

担当理事 近藤 英司

令和4年からHPVワクチンの積極的勧奨がようやく再開したが、接種率は未だに上昇していないのが現状である。キャッチアップ世代の接種事業も本年度で終了の予定であり、子宮頸癌撲滅のため接種率向上に尽力したい。

子宮頸癌検診については、世界的にHPV単独検診が30-60歳の検診者に推奨されているが、従来の細胞診検査におけるLBC検体の取り扱いなど整備が整っていない市町村もあり、行政と連携し、細胞診事業も展開していく。

## 【勤務医】

担当理事 長尾 賢治

- 1) 勤務医の本会行事への参加および入会促進  
本会行事の広報活動を活発化し、勤務医の本会行事への参加を促進し、さらに本会の加入を促進する。
- 2) 持続可能な産婦人科医療に向けた活動  
三重県産婦人科学教室同門会と共同して、勤務医待遇改善、子育て女性医師支援、研修体制の整備等による産婦人科専攻医の増加、継続就労率の上昇を図るとともに、医療機関の機能分化と連携強化による持続可能で安定的な産婦人科医療提供に向けた活動を行う。
- 3) 各種専門医制度・技術認定医制度への対応  
各種専門医制度・技術認定医制度に基づく研修医制度および専門医の更新に関する情報を周知し、会員が円滑に対応できるよう広報活動を行う。

## 【先天異常・感染症対策】

担当理事 前川 有香

- 1) 胎児形態異常:多くの症例を病診連携でご紹介頂いております。「診断には至らないが、気になるところがある」という場合も、基幹病院にご相談下さい。
- 2) 新型コロナウイルス感染症:5類感染症に変更され、大きな流行はありませんが、インフルエンザと共に常に感染者が出ており、医療者の感染や院内感染例も発生していますので、発熱者には抗原定量検査を実施して頂くようお願い致します。
- 3) サイトメガロウイルス(CMV):妊婦スクリーニングは、臨床研究としても大きな成果を上げております。引き続き御協力下さい。
- 4) HTLV-1母子感染予防対策:3ヶ月間の短期母乳栄養と完全人工栄養が、同等の母子感染率であることが示されました。短期授乳の場合、確実に断乳するまでのフォローとケアが必要であり、口頭で注意するだけで推奨できる方法ではありません。近々三重県のHTLV-1マニュアル改訂版をお届けしますので、ご一読下さい。陽性妊婦から出生した児のフォローは、親子支援事業を利用して小児科へのご紹介をお願い致します。また、児の確認検査を確実にを行うために、陽性者の母子手帳に貼付するシールを作成しており

ますので、ご活用下さい。

- 5) 梅毒：全国的に感染者が増加しています。陽性者の治療として、従来からのアモキシシリン 4 週間内服に加え、ベンジルペニシリンベンザチン(ステルイズ)240 万単位の筋肉内注射が可能となりました。かなり注射の痛みが強いようですが、内服コンプライアンス不良の患者には良い方法と思われまますので、ご検討下さい。

## 【性教育】

担当理事 金丸 恵子

H22 年に開催された性教育指導セミナー全国大会をきっかけに教育・行政・警察や NPO チャイルドヘルプラインなどとの横のつながりを深める活動を継続してきました。昨年度も 2 月に県の依頼を得て第 13 回思春期保健指導セミナーを開催しました。当日会場参加のみの開催でしたが約 200 名のかたが参加されました。今年度も開催をめざします。

三重県健康福祉部からの委託でライフプランのための教材として中学生向け、高校生以上向けのパンフレット、思春期世代対象のウェブサイト「知りたい！ココロとカラダの Q & A」の監修に携わってきました。中学高校以外にも県内の大学や企業の社員向けに講師派遣を行っています。

性教育に携わる教育関係・行政関係の方たちにも参加していただく懇話会を年に 3-4 回持つ予定です。担当委員の先生がた以外にもご参加いただける先生はご連絡ください。

(kanamaru57925@zb.ztv.ne.jp)

学校現場への講師派遣については需要も増しており年間 60-70 校に実績があります。依頼のあった学校や企業には全て応じていきたいと考えます。聞き手の生徒の様子に応じて適切な言葉の選択・内容が求められます。もし依頼されたがご自分の都合がつかない学校がございましたら医会事務局へ連絡ください。また講義用のスライドの提供もできます。講義先で気づいたことや新しい情報などはお知らせいただき共有したい。行かれた学校名などを年度末にご報告ください。定期接種である中高生への HPV ワクチンの意義・子宮頸がん予防についての正しい理解の啓蒙活動を継続し、キャッチアップ接種・9 価ワクチンの接種を推奨していきたい。月経困難症について 10 代から婦人科医がかかわる重要性を学校現場や親たちへ情報提供していきたい。性のトラブルのほか、性暴力の被害者・加害者にならないための指導、LGBTQ の方への配慮など多岐にわたる内容が求められる時代です。

## 【不妊】

担当理事 前沢 忠志

2022 年 4 月より不妊治療が保険適応とされ、1 年以上が経過した。そのことにより、患者の体外受精へのハードルが下がり、若年患者の体外受精の実施件数は増加している。また、先進医療や保険適応化されなかった検査や治療もあり、その実施には配慮が必要である。保険診療のルールは徐々に定着しつつあるが、過剰な心配のもとに自費診療で行われている治療もある可能性がある。しかし、保険診療で実施出来る治療を自費診療で行うことは、患者のデメリットが大きく、慎まれるべきである。そのためには、県下の生殖医療医が連携し、情報共有・問題点の共有を出来る場を定期的に設定し、体外受精の保険診療が円滑に行われるようにすべきである。

三重大学医学部附属病院高度生殖医療センターが中心となり、生殖医療に携わる医療機関に働きかけ、定期的な連携・情報共有を行うことで、不妊症や不育症に悩むご夫婦に最新の医療を提供する体制の構築に協力する。

**【専門医制度】**

担当理事 近藤 英司

- 1) 学術委員会の研修会、学術講演会開催方針に則って、専門医認定および更新のための研修会を開催する。
- 2) 専攻医の生涯研修のための研修会を開催する。
- 3) 上記研修会の出席証明を JSOG カードを用いて認定する。
- 4) 専門医新規申請者、更新者および施設新規認定、更新などの申請にかかる 1 次審査を行う。